

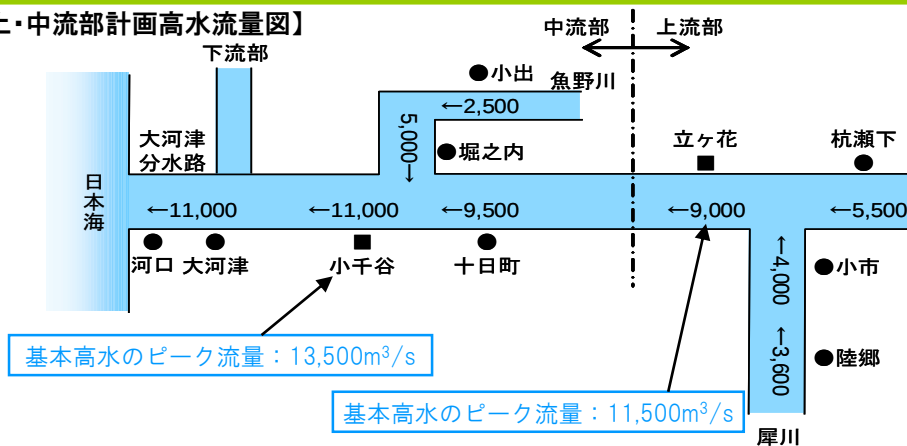
河川整備計画変更（原案）について

令和 4 年 1 月 1 3 日

北陸地方整備局
信濃川河川事務所

○基本高水のピーク流量を上流部立ヶ花地点で11,500m³/s、中流部小千谷地点で13,500m³/s、下流部帝石橋地点で4,200m³/sとした。

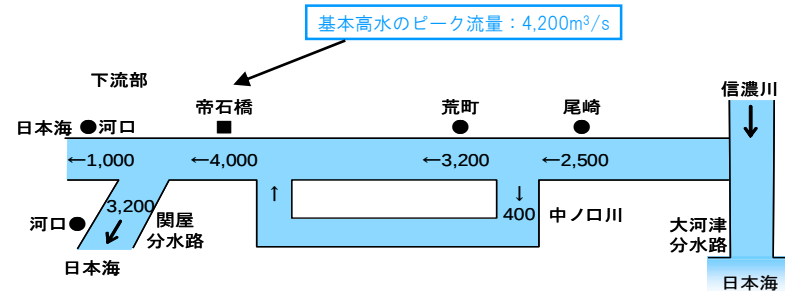
【上・中流部計画高水流量図】



(単位：m³/s)

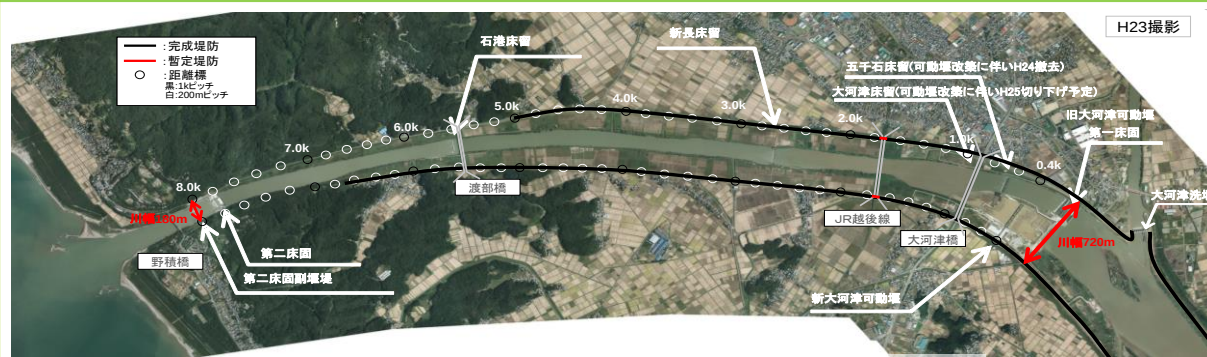
■：基準地点
●：主要地点

【下流部計画高水流量図】



治水対策の基本的な考え方

- 堤防の新築、拡築、河道掘削及び堰の改築等による河積の増大、護岸整備、堤防強化等を実施し、計画規模の洪水を安全に流下させる。
- 河道で処理できない流量については、流域内の洪水調節施設により洪水調節を行う。
- 上流部における立ヶ花や戸狩の狭窄区間においては、関係機関との連携・調整を図りつつ、適切な役割分担のもと、輪中堤や宅地の嵩上げ等により効率的に洪水被害の軽減を図る。なお、狭窄部の河道掘削にあたっては、指定区間も含めてその下流部への影響を考慮し、治水安全度のバランスを図りながら、適切に実施。
- 中流部においては、大河津分水路の拡幅等による抜本的な整備を実施。また、扇状地部や急流部における水衝部対策等のために護岸や水制等を整備。
- 下流部における河道掘削は、治水安全度が低い中ノロ川等の支川合流点付近の水位低下の効果があることから、支川も含めた流域全体の治水安全度向上に寄与する治水対策として実施。また、亀田郷や白根郷などのゼロメートル地帯を含む低平地は、自然排水が困難なことから内水被害の著しい地域になっており、関係機関と連携・調整を図りつつ、内水対策を実施。



大河津分水路改修(河口部に向かうにつれ川幅が狭まる)

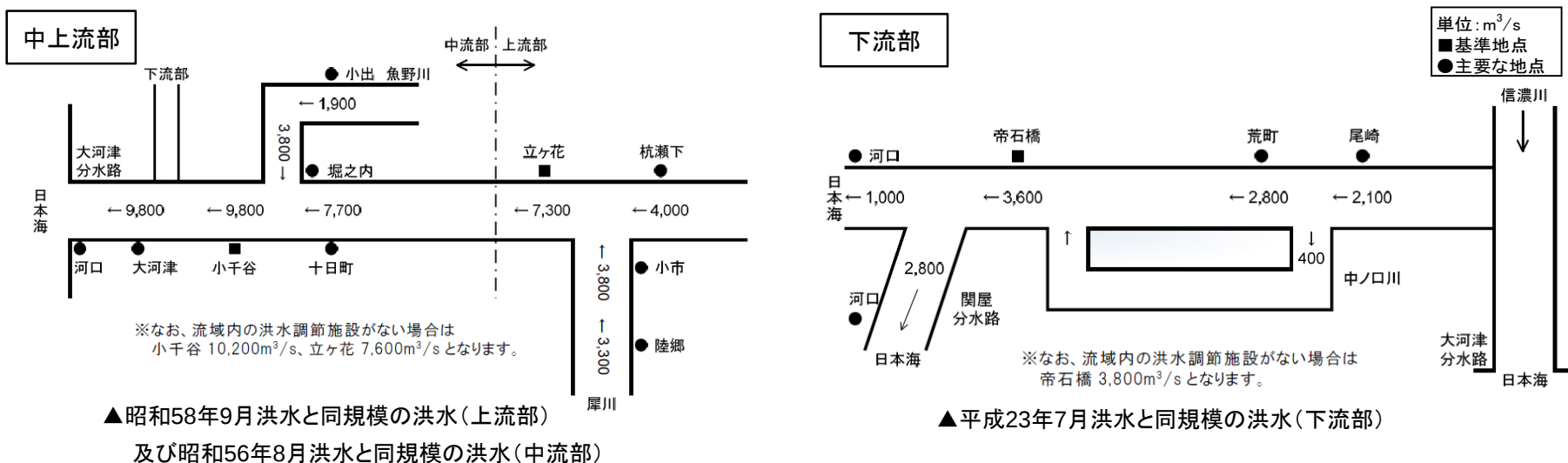


「北アルプスからの清流を湛え、豊穡な大地の礎をなす悠久なる大河信濃川を守り、活かし、未来に伝える川づくり」を目指し、温暖化等、長期的な気候変動に注視しつつ、治水・利水・環境に係る施策を展開します。

〔洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標〕

〔災害の発生の防止又は軽減〕

- ・水系一貫となって災害防止・被害最小化を図る観点から、上下流、本支川バランスを確保し、県境区間や支・派川等の整備に関する情報を共有するなど、関係する河川管理者と連携を図りつつ水系全体として治水安全度の向上を図ります。
- ・河川整備基本方針で定めた目標に向けて、現在の河川整備状況、背後の利用状況、上下流、本支川の整備バランス等、総合的に勘案し、段階的かつ着実な河川整備を実施することで戦後最大規模の洪水に対し災害の発生の防止又は軽減を図ります。



〔河川管理施設及び河道の適切な維持管理〕

〔水防、避難に資する適切な情報提供等〕

〔河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標〕

- 〔流水の適正な利用及び正常な機能の維持〕
- 〔良好な水質の維持〕
- 〔健全な水循環系の確保〕

〔河川環境の整備と保全に関する目標〕

- 〔河川環境の保全及び生物の生息・生育・繁殖地保全〕
- 〔良好な景観の維持・形成〕
- 〔人と河川との豊かなふれあいの確保〕
- 〔河川空間の適正な利用と保全〕

第1回 信濃川水系流域委員会中流部会資料

- 令和元年東日本台風（台風第19号）洪水により、信濃川水系の千曲川上流域から信濃川中流域の広域にわたって甚大な被害が発生。洪水の規模は、戦後最大を更新。
 - 流域内の関係機関が連携して河川によるハード対策と地域連携によるソフト対策を一体的かつ緊急的に進める「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を策定、実施中。これにより河川整備が加速。
 - 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」への転換を推進し、防災・減災が主流となる社会を目指す。
- ☆ 更なる治水安全度向上のため、河川整備計画を変更する。

整備計画変更のポイント

①更なる治水安全度向上のための変更

- 戦後最大規模の洪水となった令和元年東日本台風（台風第19号）洪水に対し災害の発生の防止又は軽減を図るため、整備目標の引き上げを実施。
なお、目標設定にあたっては上下流、本支川バランスを確保した計画とする。
- 整備内容は河道掘削等の河道改修の推進と併せ、既設ダムの活用や遊水地の設置など、新たな洪水調節施設での対応を検討。

②現在の取組みを踏まえた変更

- 「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」に関する取組みを追加

第1回 信濃川水系流域委員会中流部会資料

◆令和元年東日本台風(台風第19号)洪水に対し、災害の発生の防止又は軽減

上流部（千曲川）では、上田市諏訪形地区で堤防欠損、長野市穂保地区で越水により堤防決壊が発生。中流部（信濃川中流）では、小千谷市、長岡市で浸水被害が発生。大河津分水路ではJR越後線橋梁の桁まで洪水位が到達したが、氾濫発生を僅かに逃れた。



千曲川堤防欠損状況(上田市諏訪形地先)

千曲川堤防決壊状況(長野市穂保地先)

信濃川浸水状況(長岡市今井地先)

大河津分水路増水状況(JR越後線橋梁)

◆上下流バランスのとれた治水安全度の更なる向上

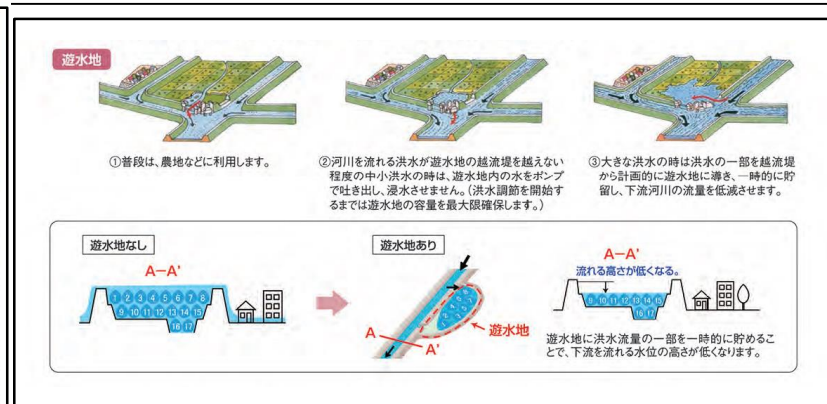
中流部（信濃川中流）では、大河津分水路を含む長岡市等の河道掘削を行い、上流部（千曲川）では、立ヶ花、戸狩狭窄部の掘削や既設ダムの活用や遊水地の設置により洪水時の水位の低下を図り、水系全体のバランスを確保しながら全体として洪水処理能力を段階的かつ着実に治水安全度を向上します。



信濃川・大河津分水路を望む



千曲川 立ヶ花狭窄部を望む



遊水地のイメージ

◆信濃川水系河川整備計画変更のポイント

① 令和元年10月東日本台風洪水を踏まえた見直し

- ◆現行の河川整備計画目標流量を大きく上回る洪水の発生を踏まえ、目標流量を見直し。将来の気候変動の影響による降水量の増大等を踏まえたものとする。

- 上流部（千曲川）

戦後最大を更新した令和元年10月洪水と同規模の9,400m³/sを基準地点立ヶ花の目標流量とし、堤防の決壊、越水等による家屋の浸水被害の防止又は軽減を図る。

- 中流部（信濃川）

戦後最大を更新した令和元年10月洪水及び上下流バランスを考慮し、12,000m³/sを基準地点小千谷の目標流量とし、堤防の決壊、越水等による家屋の浸水被害の防止又は軽減を図る。

- ◆河道掘削等の河道改修の推進と併せ、洪水調節機能の向上を図る対策の実施や調査・検討。

河口部で洪水処理を担う大河津分水路の改修を優先的に進めるとともに、上流部・中流部の安全性が段階的に向上するよう立ヶ花狭窄部などの河道掘削や築堤等の整備を実施する。

河道断面（河積）の確保にあたっては、河道掘削、自然再生、砂利採取等の連携した実施により、持続可能な河道の流下能力の維持・向上や生物の生息・生育・繁殖環境の保全、創出、樹林化の抑制や再繁茂対策などを図る。

また、大町ダム等再編事業に加え、遊水地の設置や、洪水調節機能の向上を図るため、関係機関と調整のうえ、調査・検討を行い、必要な対策を実施する。

② 流域治水を踏まえ治水対策案を見直し

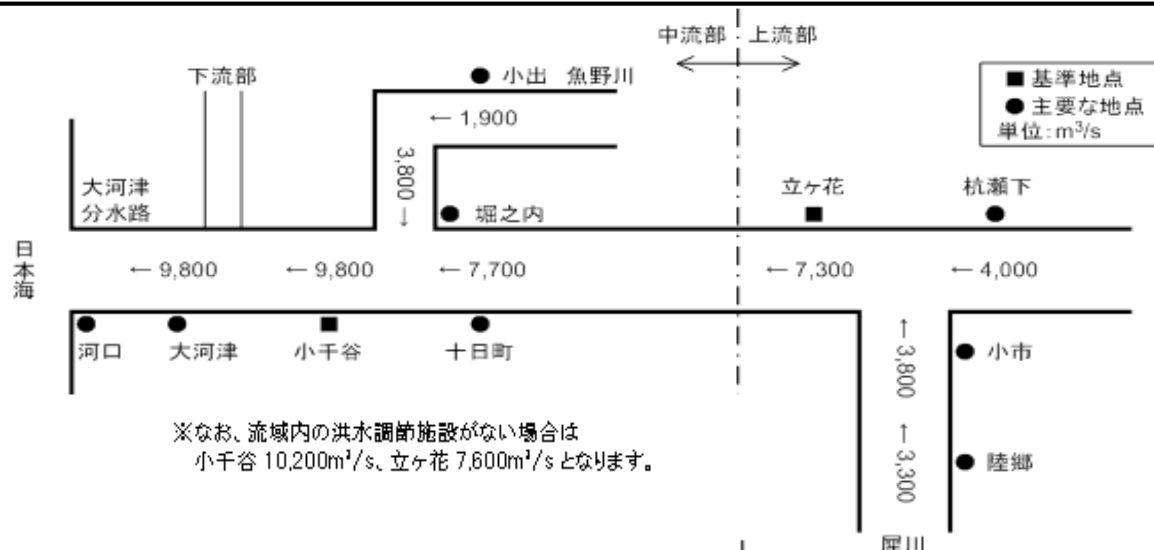
ハード対策のみならずソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」へ転換。

- 既存の霞堤により洪水流を貯留する効果や氾濫流の拡大防止効果の維持・保全を図る。また、掘削残土を活用した河川防災ステーションの整備を行う。さらに、住民の確実な避難に向けたマイ・タイムラインや流域タイムライン等のハード・ソフト一体となった対策により、被害軽減を図る。

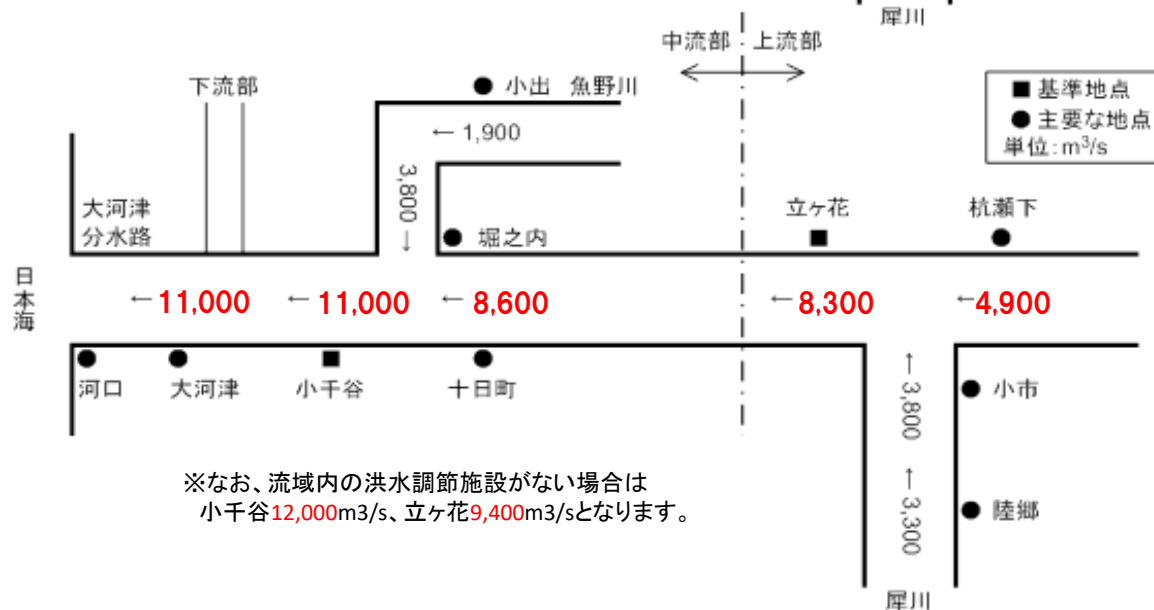
◆流量配分図（中・上流部）

- 戦後最大規模の洪水となった令和元年東日本台風（台風第19号）洪水に対し災害の発生防止又は軽減を図るため、整備目標の引き上げを実施。
- 計画変更の対象区間は、被災、出水規模等を踏まえ、上流部千曲川及び中流部の信濃川の本川に位置する基準地点、主要地点の区間とする。

現行(H26.1策定)



変更

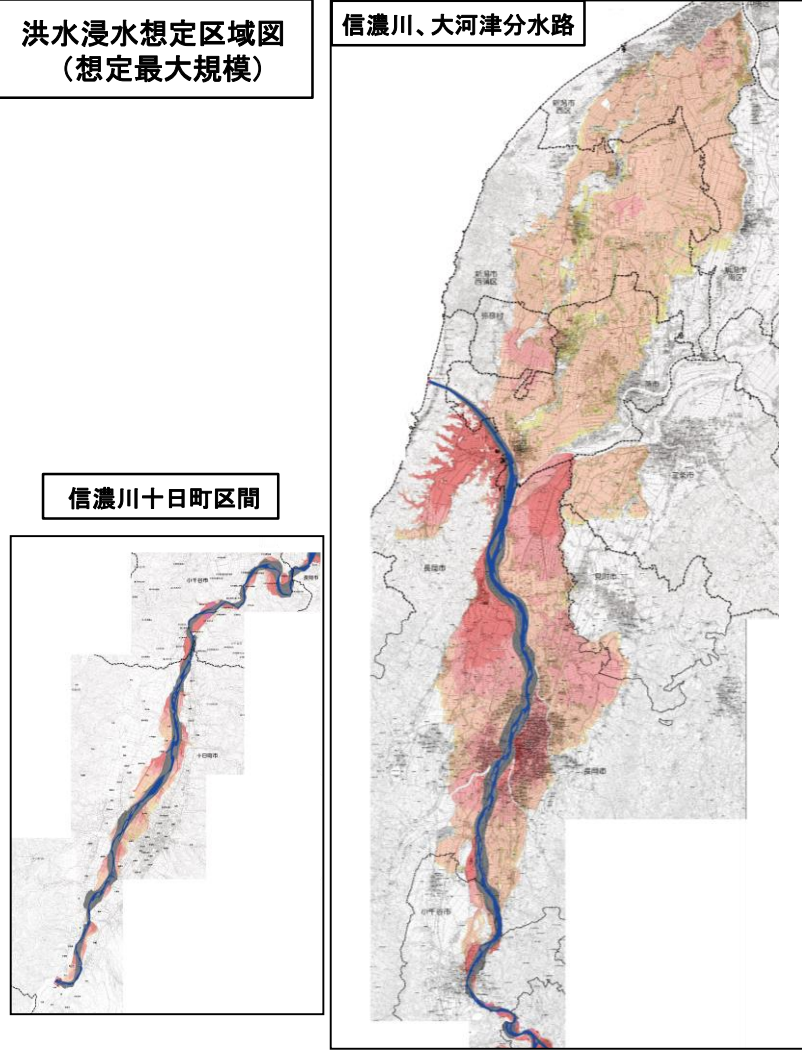


計画規模を上回る洪水や施設能力を上回る洪水への対応【目標の追加】

※変更(原案) P62

■ 計画規模を上回る洪水や整備途上において施設の能力を上回る洪水が発生した場合においても、人命・資産・社会経済の被害を可能な限り軽減できるよう流域治水を推進します。そのため、想定し得る最大規模の洪水までの様々な外力に対する水害リスク情報を地域に提示し、危機感を共有し、実効性のある事前防災対策を行うため、関係機関と連携したハード対策とソフト施策を一体的かつ計画的に推進し、自助、共助、公助のバランスのとれた防災・減災社会の構築を図り、人命を守り、社会経済被害の最小化につなげることを目標とします。

洪水浸水想定区域図
（想定最大規模）



凡 例

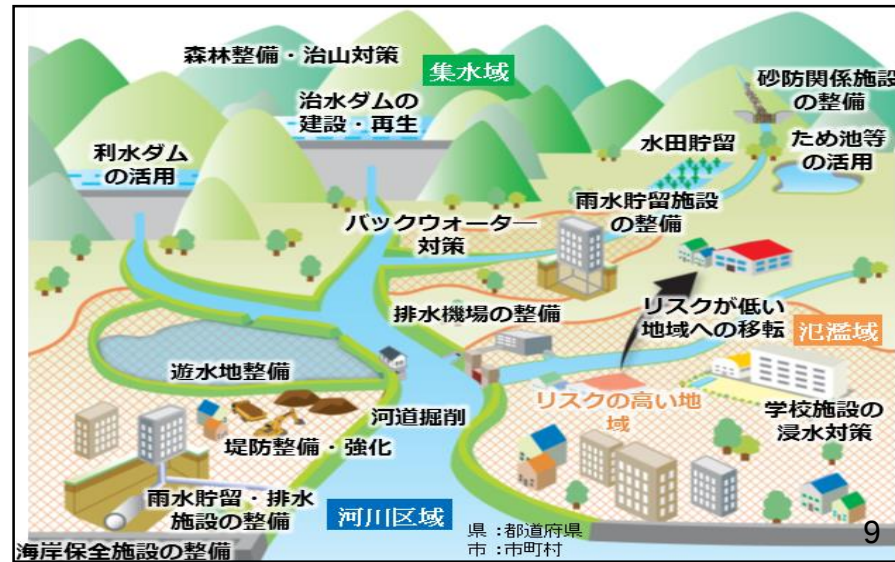
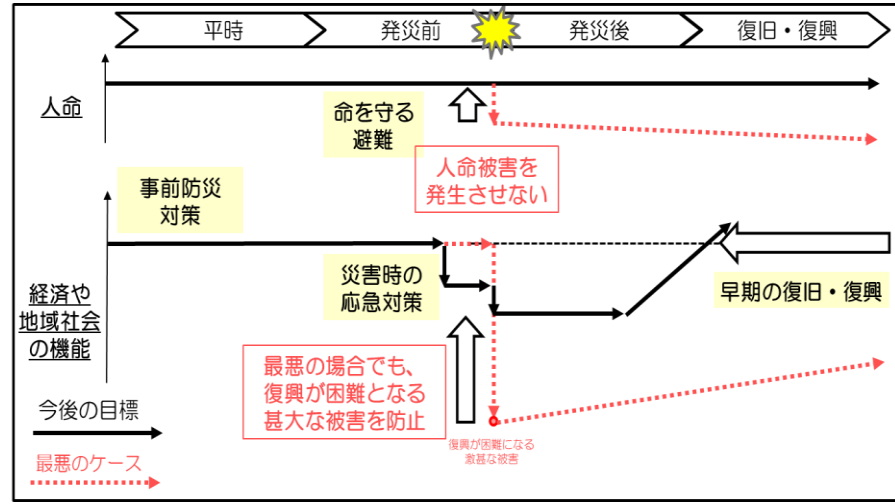
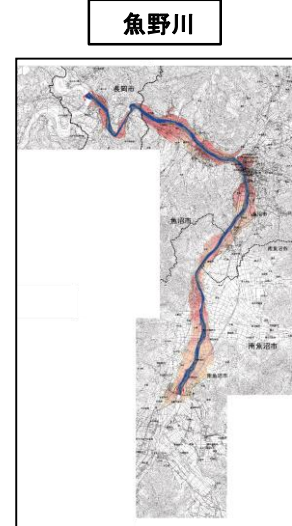
浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5～3.0m未満の区域
- 3.0～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域

----- 市町村界

河川等範囲

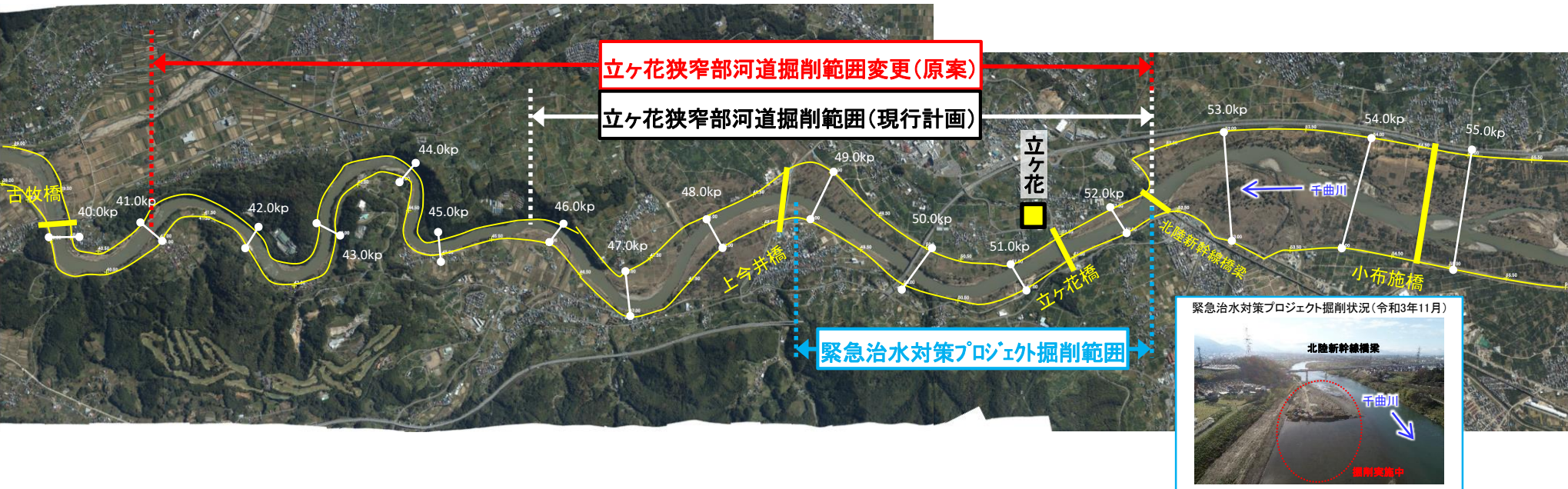
 浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川



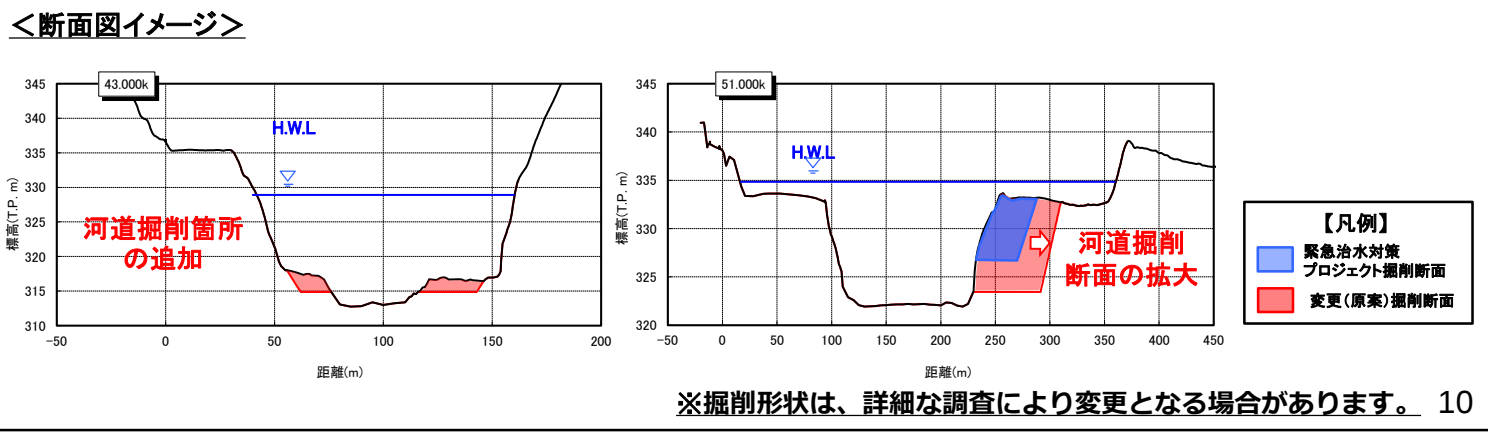
狭窄部の河道掘削（上流部）【事業箇所追加】

※変更（原案） P71

- 狭窄部のせき上げにより、洪水時の水位が高い狭窄部上流区間の水位低下を図るため、立ヶ花狭窄部内の河道掘削の事業区間を延伸及び掘削断面の拡大を実施。
- 上下流バランスや水位低減効果を考慮し、段階的な掘削を行い、河川整備計画期間内に目標の達成に必要な河川断面を確保する。



航空写真（立ヶ花狭窄部）



千曲川上流区間での河道掘削 【事業箇所追加】

※変更(原案)P71

- 目標流量の変更に伴い、千曲川上流区間での河道掘削区間を追加。
- 千曲川の上流区間では、かつての千曲川らしい砂礫河原に再生するために、冠水頻度を考慮した河道掘削によって洪水等による攪乱の頻度や範囲を拡大させ、樹木の再繁茂を抑制するとともに多様な水際環境を形成させ、砂礫河原や瀬・淵環境の保全・再生を図る自然再生事業を実施。

【千曲川の自然再生（砂礫河原の再生）の事例】

整備前 河原が樹林化
(外来植物が繁茂)



河川の景観が悪い

冠着橋上流の例（平成26年夏）

整備

整備後



千曲川の砂礫河原

冠着橋上流の例（令和2年6月）

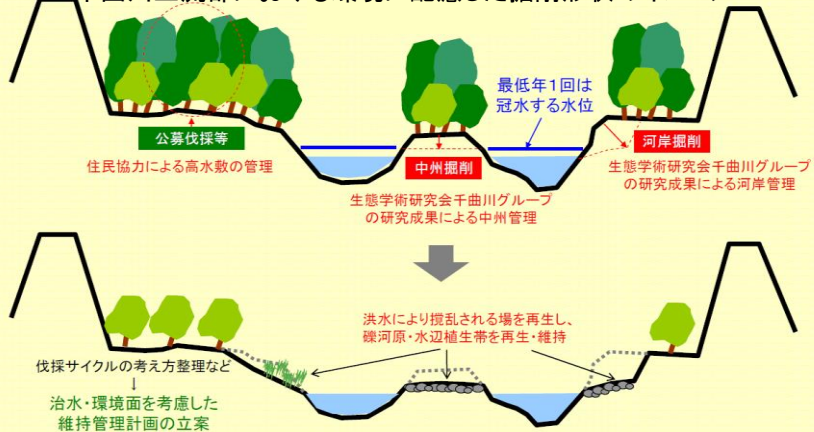


河道掘削追加 変更(原案)

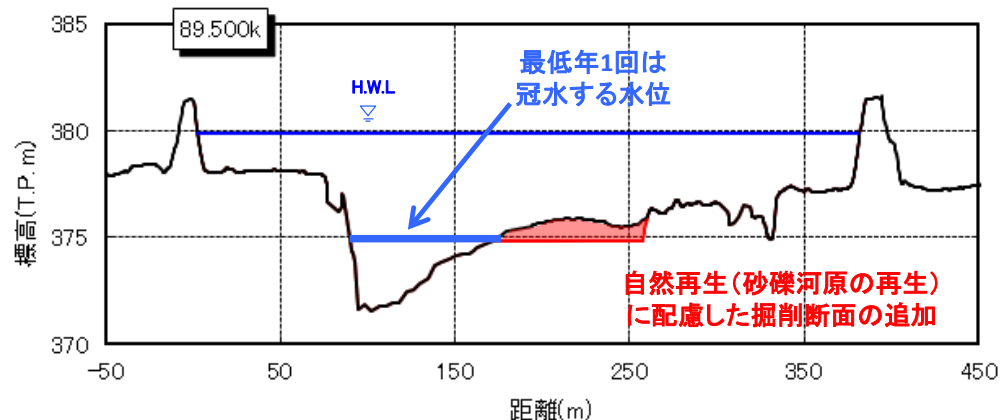
大正橋

万葉橋

千曲川上流部における環境に配慮した掘削形状のイメージ



<断面図イメージ>

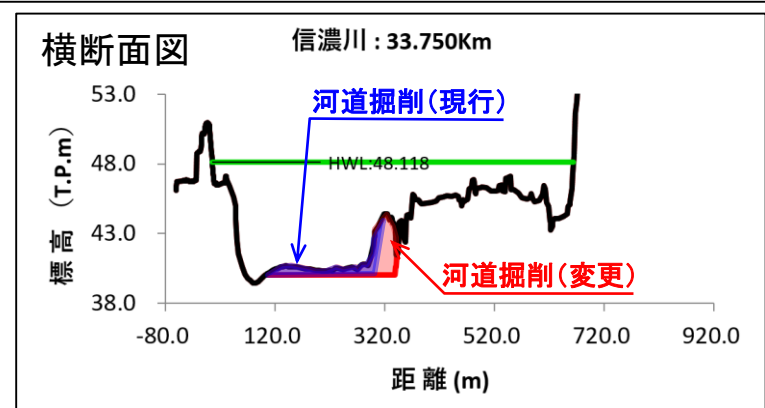
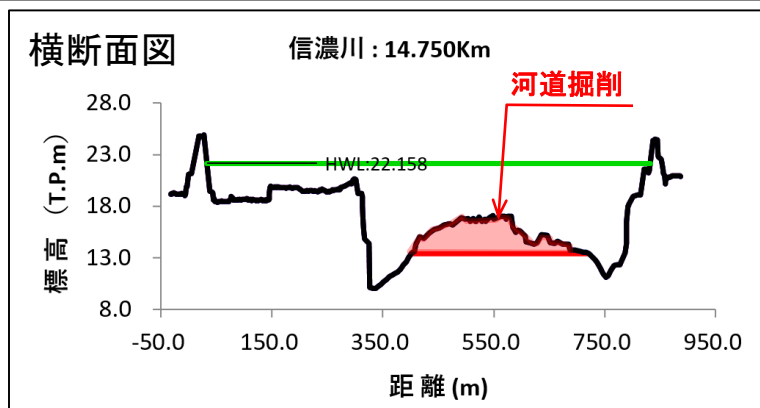
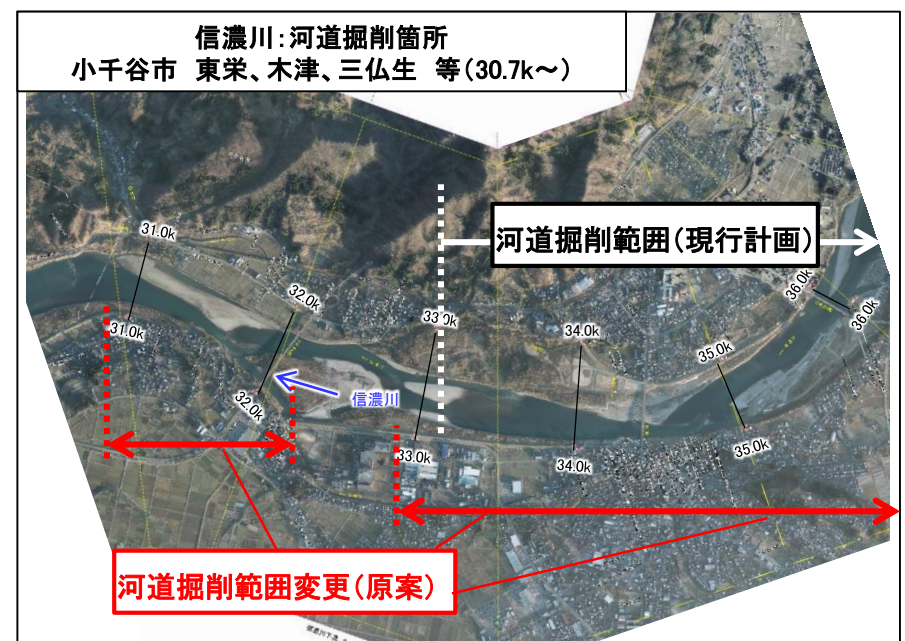
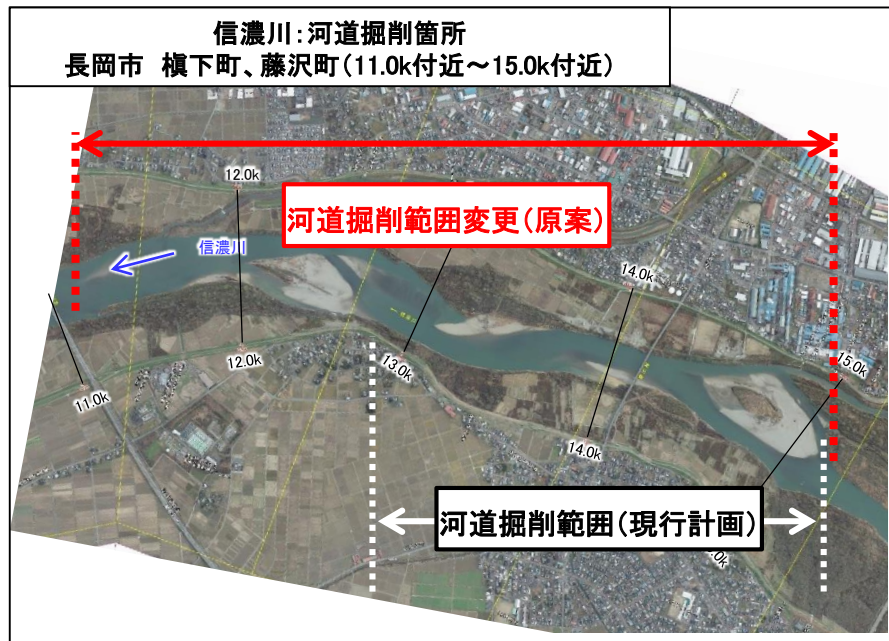


※掘削形状は、詳細な調査により変更となる場合があります。 11

河道掘削（中流部）【事業箇所追加】

※変更（原案） P72

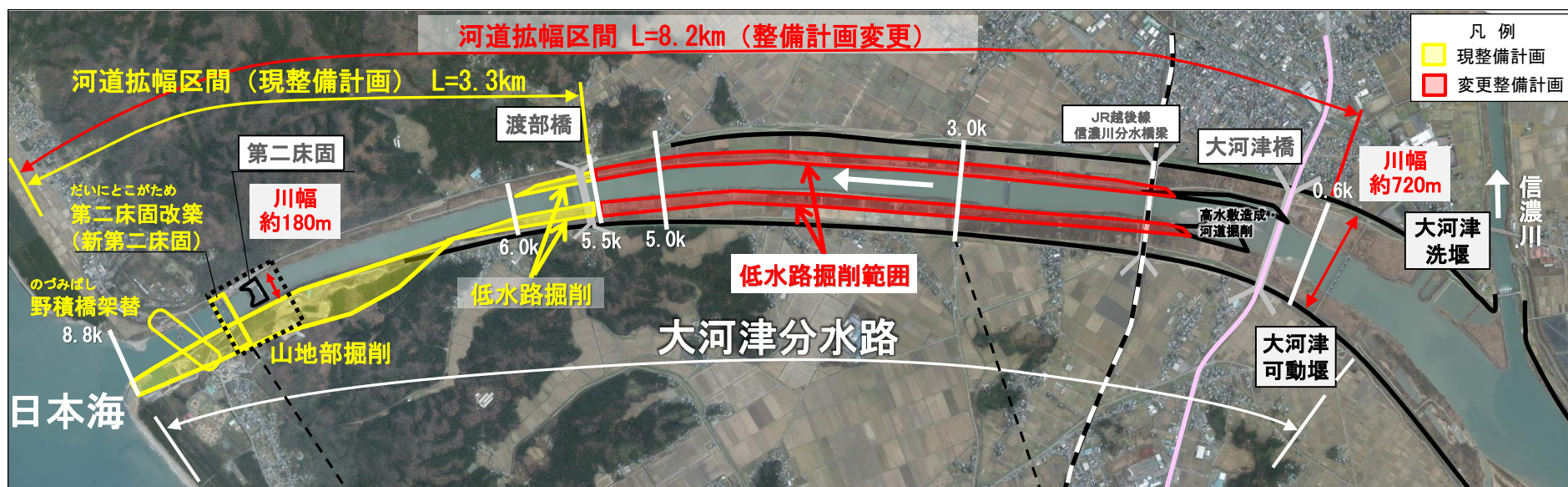
- 目標流量の変更に伴い、河積を拡大するための河道掘削等を実施。
- 河道掘削により発生した土砂を、部分的に堤防断面が不足する箇所や管理上一枚のりとした方が有利な箇所等における堤防断面を確保に有効活用



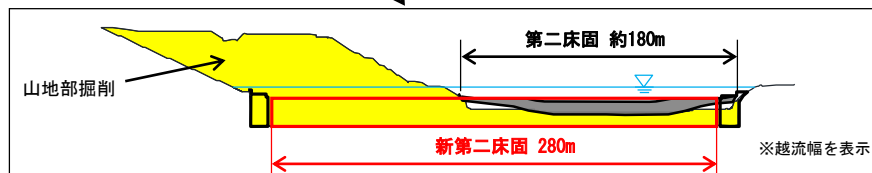
大河津分水路 【河道拡幅区間の変更】

※変更(原案) P74

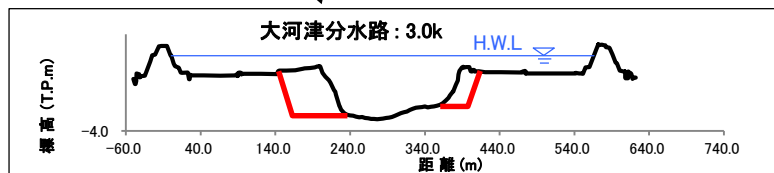
- 大河津分水路の河道拡幅は、現河川整備計画では策定当時の目標（当時の戦後最大規模である昭和56年8月洪水と同規模の洪水）に対して家屋の浸水被害の防止又は軽減を図ることを目的に、河口部の延長3.3kmの区間としていた。
- 今回の河川整備計画の変更により、新たな目標（戦後最大規模である令和元年東日本台風洪水と同規模の洪水）に対して家屋の浸水被害の防止又は軽減を図るため、河道拡幅区間の延長を3.3kmから8.2kmに変更。
- これに伴い、低水路掘削区間の追加等、河川整備計画における実施内容を変更。



大河津分水路平面図



横断面図（新第二床固付近）



横断面図（大河津分水路3.0k付近）

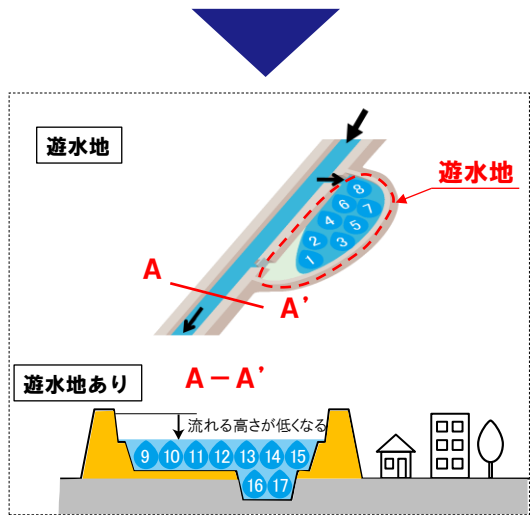
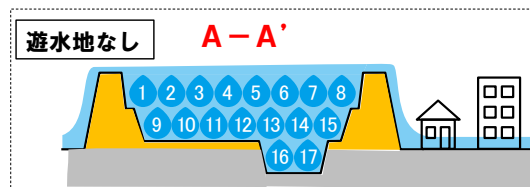
遊水地の整備（上流部・中流部）【事業内容の追加】

※変更（原案） P75

- 信濃川水系（千曲川・信濃川中流）では、令和元年東日本台風における甚大な被害を受け、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進めており、上下流バランスや、氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、水位低下を目指し、河道掘削及び遊水地の対策を進めている。
- 信濃川水系千曲川（直轄管理区間）では「5箇所」、信濃川水系信濃川（直轄管理区間）では「2箇所」の遊水地整備を実施することとしている。

遊水地整備の効果

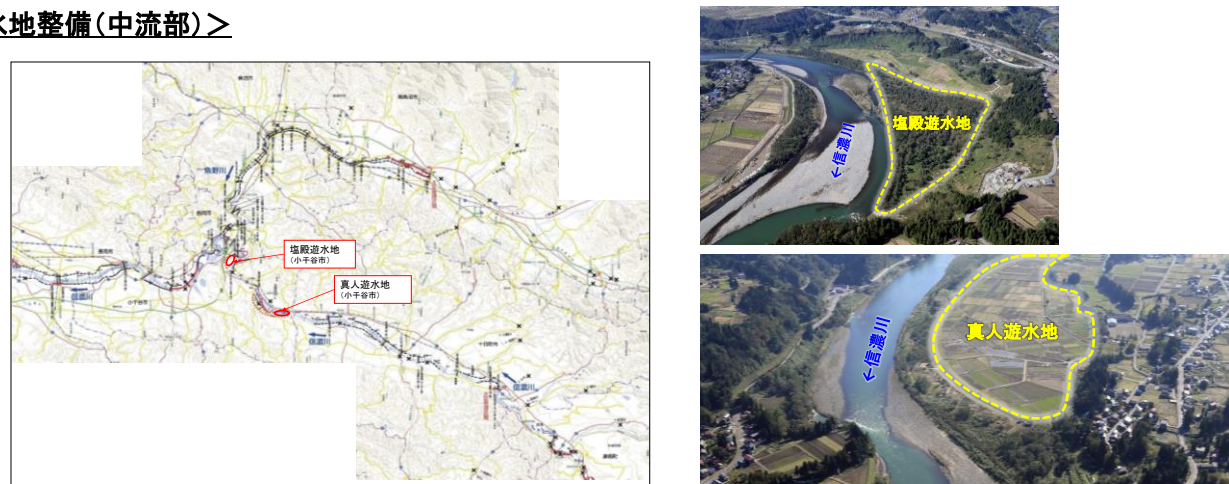
- 遊水地とは、洪水になったときに川の水を一時的にためる施設。
- 遊水地で水をためることで、下流へ流れる洪水が減り、浸水などの被害を減らす効果がある。



<遊水地整備（上流部）>



<遊水地整備（中流部）>



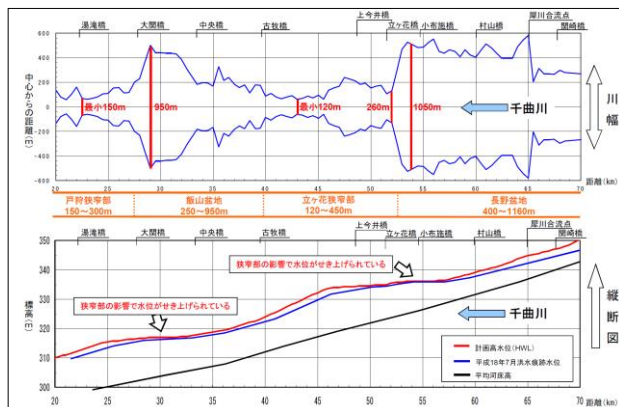
粘り強い河川堤防等の整備（上流部）【事業内容の追加】

※変更（原案） P76

■信濃川水系（千曲川・信濃川中流）では、令和元年東日本台風における甚大な被害を受け、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進めており、上下流バランスや、氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、水位低下を目指し、河道掘削及び遊水地の対策を進めているところであるが、地形的要因のため、越水の危険が内在し、決壊した場合に甚大な被害が発生する区間において、粘り強い河川堤防等を減災対策として整備する。

<粘り強い河川堤防の整備（上流部）>

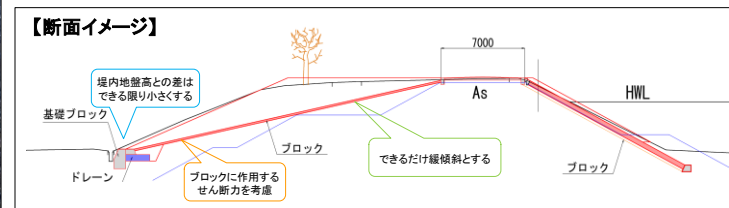
洪水時に立ヶ花狭窄部によるせき上げ影響区間となる「立ヶ花～村山橋」の有堤区間について、粘り強い河川堤防を減災対策として整備。



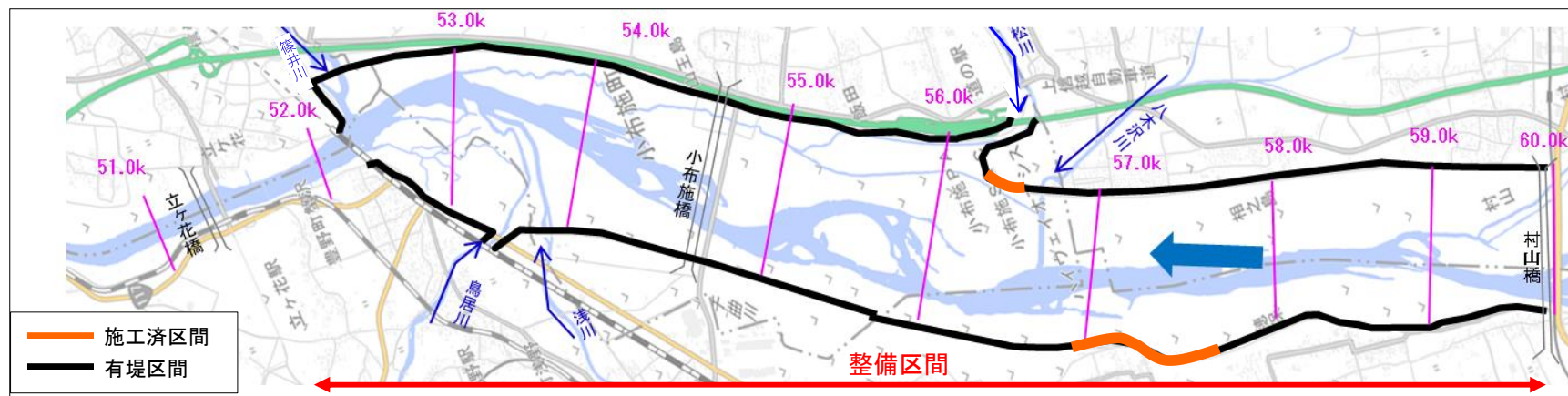
地形的特徴（狭窄部）



航空写真（立ヶ花狭窄部）



粘り強い河川堤防 断面イメージ



粘り強い河川堤防 施工範囲

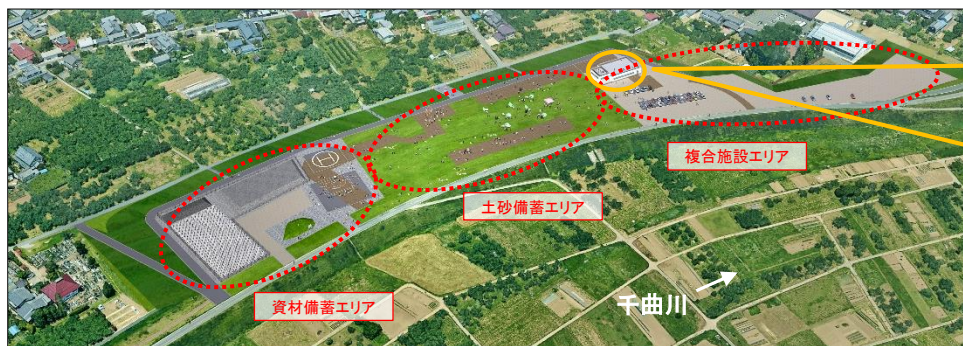
河川防災ステーションの整備（上流部・中流部）【事業箇所追加・具体化】

※変更（原案） P76～77

- 信濃川水系の洪水被害を最小限とするため、災害時の活動拠点となる河川防災ステーションの整備について、現行整備計画の3箇所に新たに上流部の「長沼地区（長野市）」「飯山地区（飯山市）」を追加する。
- 令和元年東日本台風に伴う洪水により、家屋等の浸水被害が発生したため、長沼（長野市）・長岡（長岡市）の河川防災ステーション整備を進めているところ。

<長沼地区河川防災ステーション（上流部）> ※整備箇所の追加

長野市と連携し、千曲川において河川防災ステーション整備に着手。洪水発生時の迅速かつ円滑な復旧活動を行う体制の強化を図る。



長沼地区河川防災ステーション整備イメージ

複合施設イメージ（長野市）
※水防センター 兼 長野市長沼支所

登録伝達・確認書調印式を実施【令和3年4月16日】

<長岡地区河川防災ステーション（中流部）> ※整備内容の具体化

信濃川中流において、令和3年度から長岡市と連携し河川防災ステーションの整備に着手。洪水発生時の円滑かつ迅速な水防活動、緊急復旧活動を実施する体制を強化。



登録伝達・確認書締結式を実施【令和3年4月16日】

支川合流点処理（中流部）【事業箇所の追加】

※変更（原案） P83

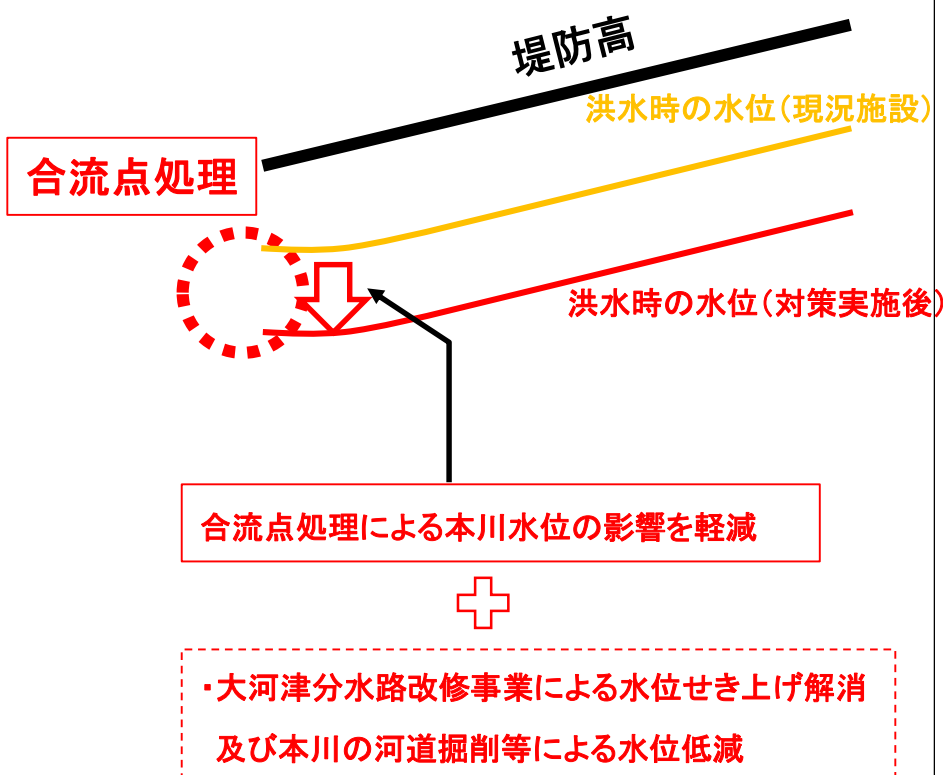
- 支川合流部では洪水時に本川水位の影響により支川水位が上昇することがあり、合流点処理が未整備の支川については、支川流域における氾濫につながる懸念がある。
- 大河津分水路改修事業や河道掘削等による本川水位の低下を図る対策と合わせ、支川の管理者と連携して有効な合流点処理を検討し、対策を実施。

現況の課題



- ・大河津分水路河口狭窄部のせき上げの作用や河道断面の不足により洪水時に本川水位が上昇

対策効果（栖吉川水位縦断イメージ）



河川整備計画変更（原案） 河川環境の整備と保全

越後平野における生態系ネットワークの形成（信濃川水系信濃川）【取組内容の追加】

※変更（原案） P86

- 信濃川流域（信濃川水系下・中流）では、ガン類、ハクチョウ類、トキといった大型水鳥を指標種・シンボルとした生態系ネットワーク形成の取組を、国・県・市町村、学識者、環境団体等が参画する協議会を設置し議論している。
- 越後平野の河川（信濃川及び阿賀野川）を基軸とし、その周辺の支川、水路、潟池、水田、里山、森林等における大型水鳥の保全・活用の現状や河川環境関連事業について整理し、今後、連携の可能性が考えられる事業やモデル候補地域について検討・協議し、生態系ネットワークの形成に向けた取組、豊かな自然環境を活用した魅力的な活力ある地域づくりの取組の推進を行う。



- 既存中核地
- 連携の可能性が考えられるモデル候補地域の例
- 既存ネットワーク
- 計画ネットワーク

福島潟・瓢湖エリア

- 取組内容（案）：個体数調査、環境教育・観察会、ハクチョウ観察ツアー、パンフレット配布、グッズ・ブランド農産物の開発・販売、水鳥のパトロール
- 主な取組主体：今後検討



環境に優しいお米の販売



福島潟湖畔の視察

阿賀野川下流エリア

- 取組内容（案）：河岸浅場の創出、ワンドの再生、魚道設置等の自然再生事業
- 主な取組主体：阿賀野川河川事務所など



自然の再生イメージ



阿賀野川で休憩する水鳥

かわまちづくり(上流部) 【取組内容の追加】

※変更(原案) P91

- 広域観光ルートの構築、歴史文化の伝承、未来へ繋げる関係人口の育成等により、広域観光の推進と地域活性化を図るため、各市町村の水辺拠点で親水護岸、管理用通路を整備。
- 現在行われている水辺アクティビティやスポーツイベントでの広域な連携、さらにアウトドア民間事業者や鉄道事業者とのタイアップによる広域観光ルートの構築を自治体及び関係機関と連携し、推進。

具体事例

【千曲川北信5市町かわまちづくり】

平成31年(2019年)3月8日 かわまちづくり計画 登録認定

◆ 広域連携による観光ルートの構築

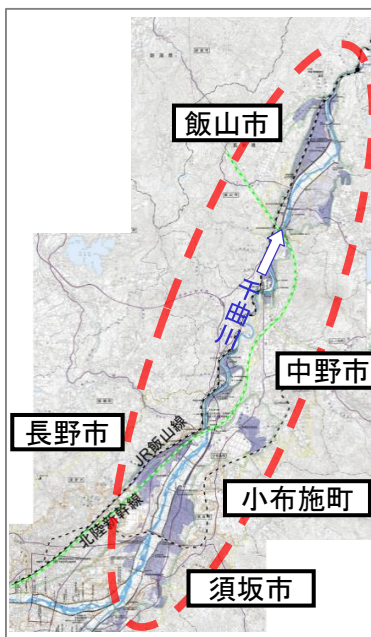
5市町を繋ぐ千曲川を活用し、各市町の水辺拠点を整備するほか、現在行われている水辺アクティビティイベントの広域な連携、さらにアウトドアメーカーや鉄道事業者とのタイアップを推進する。

◆ 未来へ繋げる関係人口の創出

石碑や遺跡施設の周辺整備、未来を担う子ども達を対象とした水辺体験を通した活動を充実させる。



平成31年4月25日 登録証伝達式

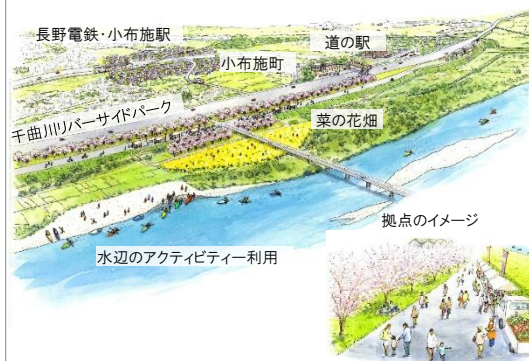


下流地区(飯山地区)



まちの既存施設(JR飯山駅、道の駅)の利用と、河川空間(水辺のアクティビティ、菜の花公園、渡し船)の利用を結びつけ、相互の利用を促進。

中流地区(小布施地区)



既存施設(観光地、道の駅、堤防桜づつみ)の利用に加え、河川空間で軽トラ市等を開催。まちの賑わいを水辺まで拡大。

上流地区(長野地区)



既存施設(運動公園)に隣接した河川空間の整備により、水辺のアクティビティ利用を促進。

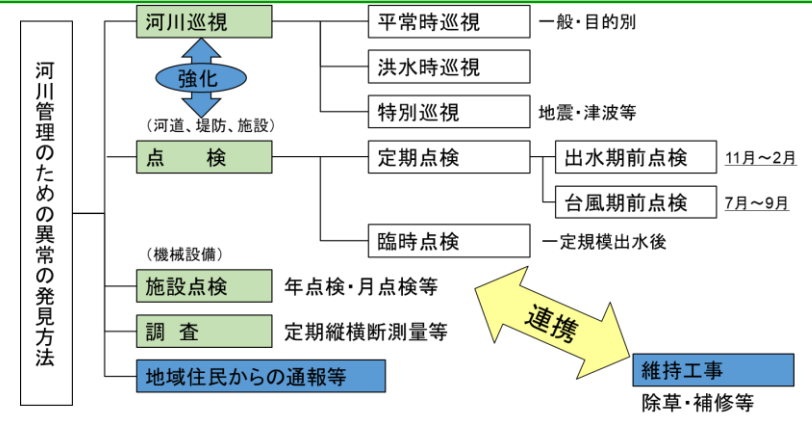
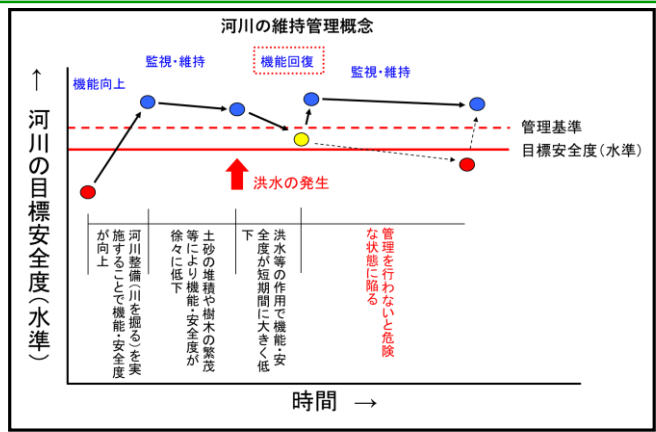
河川の維持管理【取組内容の追加】

※変更(原案) P92～P100

■ 河川の維持管理は、「河道の維持管理」、「河川管理施設の維持管理」等に対して、「目標設定」を行った上で、「状態把握」を行い、その結果に応じて適切な「対策」を実施



- 自然公物である河川の維持管理は、測量、巡視、点検、環境調査等のモニタリングを行い状況把握し、その結果を分析、評価し対策を実施することから、河川の状態把握は特に重要。
- 状態把握の実施項目は、データの収集、平常時及び出水時の河川巡視、出水期前・台風期・出水後等の点検、及び機械設備の施設点検。
- 河川環境の状態把握に関しては、河川水辺の国勢調査等のモニタリングに加え、**短期的には出水後に河川環境管理シートを用いて河川環境の変化状況を把握し、中期・長期的には河川環境管理シートの更新時に前回及び長期的な変化を把握し、その結果を分析・評価し、必要に応じ影響緩和策を検討する。**



大河津分水通水100周年、関屋分水通水50周年を迎えるにあたっての取り組み【取組内容の追加】 ※変更(原案) P101

- 令和4年に大河津分水が通水から100年、関屋分水が通水から50周年を迎えるにあたり、これらが整備されるまでの歴史や、その恩恵を再認識し、地域のつながりを形成しつつ、これからの越後平野の未来を考える取り組みを展開する。
- 「信濃川大河津資料館」、「関屋分水資料館」などの施設を活用した情報発信や、地域と連携した企画等を展開していく



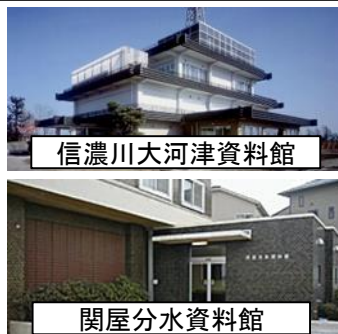
日本海

大河津分水

新潟市

信濃川

広報施設の活用



信濃川大河津資料館

関屋分水資料館

100 大河津分水 通水100周年
The Ohkoku Diversion Channel 100th Anniversary

関屋分水 通水50周年
The Sekiya Diversion Channel 50th Anniversary



施設の見学案内



施設の利用例

R3. 11. 21

NIIGATAプレミアムダイニングin燕

地域と連携した企画展開や情報発信の取組等

日本海に注ぐ大河津分水路(現在)
【1922年(大正11年)8月25日通水】



日本海

新潟市

信濃川

関屋分水路

日本海に注ぐ関屋分水路(現在)
【1972年(昭和47年)8月10日通水】



R3. 8. 25

関係市町村からなる
記念事業実行委員会設立



長岡造形大学の皆様

地域の大学と連携した
記念ロゴマークの考案



地域のイベントで
ブース設置し広報



出前講座の実施



パネル展の実施



歴史にちなんだ商品開発等

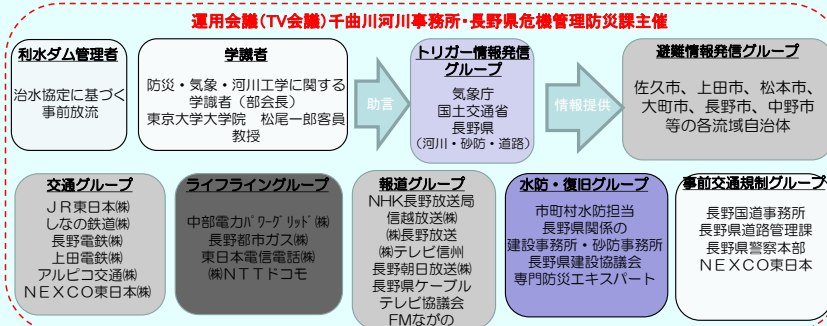
各種タイムラインの運用（上流部）【取組内容の追加】

※変更（原案） P107

- 千曲川流域に着目した「千曲川・犀川流域（緊急対応）タイムライン」を、令和2年9月より試験運用を開始。93の構成機関が一堂に会した「運用会議」を開催し、流域全体で危機感を共有し早期の対応を実施できる体制を構築。
- 千曲川・犀川流域（緊急対応）タイムラインと連動した「コミュニティタイムライン」（地域単位の避難計画）の策定により早期の防災行動に取り組む。
- 「逃げ遅れゼロ」を目指すため、マイ・タイムライン講習会（住民向け・自治体職員向け等）を実施。

【流域タイムライン】

…流域の関係機関と危機感を共有し、住民に対して早めの避難行動を促進。



＜令和3年8月出水における対応＞

陸郷水位観測所では**氾濫危険水位**
立ヶ花水位観測所では**避難判断水位**
その他全水位観測所では**氾濫注意水位**を超過
本出水において、記録的な大雨になるおそれがあったことから「運用会議」を開催し、危機感の共有を図った。

- ①8月12日 流域警戒ステージⅡに移行を決定
- ②8月13日 流域警戒ステージⅢに移行を決定
- ③8月16日 流域警戒ステージⅣの継続を決定
翌17日からの再度の大雨に対する危機感共有
- ④8月17日 降雨状況・見込みの共有

流域警戒ステージ	
時期区分	防災行動の目標
流域警戒ステージⅠ	災害の危険性に注意を向ける
流域警戒ステージⅡ	防災対応の方針を決定する
流域警戒ステージⅢ	防災対応を開始する
流域警戒ステージⅣ	上下流を意識した防災対応を実施する



千曲川河川事務所

WEB会議



各構成機関

【コミュニティタイムライン】

…国、自治体、地域住民の協働で作成する、地域単位での避難行動計画を作成。

○令和2年10月13日（令和元年東日本台風による被災から1年後）長野市長沼地区にてコミュニティタイムラインの策定に着手。今日まで計9回の座談会を実施。

○長沼地区コミュニティタイムライン検討機関
【長沼地区住民自治協議会】
自主防災会・各区長・消防分団・民生児童委員・防災指導員・長野市長沼支所

【アドバイザー】

東京大学大学院 松尾一郎客員教授
長野市総務部危機管理防災課
千曲川河川事務所



コミュニティタイムラインの取組
（長野市長沼地区）

【マイ・タイムライン】

…自分自身がとる避難行動計画を整理・作成。

＜千曲川河川事務所での取り組み＞

- 自治体職員及び住民向けの講習会を実施することでマイ・タイムラインの作成を支援
- 令和3年度は、坂城町で住民向け講習会を実施。
- 教職員向けに学校の避難行動計画を作成支援のためのマイ・タイムラインを活用した講義を実施

＜流域自治体での取り組み＞

- 流域の自治体（中野市、長野市、安曇野市等）では独自のマイ・タイムライン作成の取り組みが行われている。



住民向けマイ・タイムライン講習会
（坂城町）

※變更(原案) P107

- ## 『逃げ遅れゼロ 大作戦』参加自治体

燕市の事例

普及に向けた取り組み

▲HPにおいてとりまとめ



▲マイ・タイムライン作成実務者向け講演会

令和2年10月12日講演会 台風19号豪雨災害から1年～逃げ遅れゼロを目指して～



▲住民へのマイ・タイムライン作成講習会
(令和2年2月21日開催 信濃川河川事務所 出前講座 長岡市)

令和元年出水概要、緊急治水対策P

河川整備計画の変更

